

国際ロータリー
ロータリー財団
2015-16年度年次報告



米国イリノイ州エバンストンにある
「国際友愛の庭」に集うロータリアン。



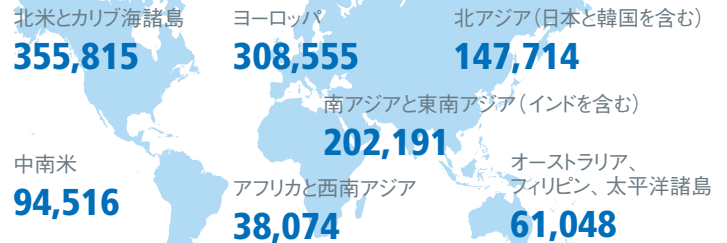


国際ロータリー
ロータリー財団
2015-16年度年次報告

ロータリーとは

ロータリーでは、変革や問題解決をめざす人たちが集い、世界が直面する大きな課題を持続可能な方法で解決することに尽力しています。ロータリアンは、ポリオをはじめとする疾病への取り組み、地元経済の発展、識字率の向上、平和の促進のために、毎年何百万ドルもの資金を集め、寄付しています。ロータリーのリソースを最大限に生かすために、全世界120万人を超える会員がボランティア活動にあたっています。

地域別の会員数*



*ロータリークラブ会員数

私たちはロータリアンです



パキスタン・ポリオプラス委員長であるアジズ・メモンさんは、保健従事者に携帯電話を渡し、現場からワクチン投与のデータを報告してもらうことで、ポリオ予防接種キャンペーンのモニタリング強化に貢献しました。

「データの収集と質、分析の向上により、パキスタンはポリオ撲滅に向けて大きく前進している」とメモンさん。

メモンさんが指揮した画期的プロジェクトの詳細は、11ページをご参照ください。



ダッカ・ノースウェスト・ロータリークラブ (バングラデシュ) に所属するハシュラト A. ビガムさんは、貧困層への医療提供プロジェクトが評価され、2015年国連ロータリーデーで「Rotary Global Women of Action」に選ばれました。

「このイベントは、私にとって大きなインスピレーションとなります。発展途上国の女性たちに向けられた賛辞ともいえます」とビガムさん。

ロータリーのGlobal Women of Actionの詳細は、6ページをご参照ください。



24歳にしてロサンゼルス・ロータリークラブ (米国カリフォルニア州) の最年少会員となったジャーメイン・イーさんは、南カリフォルニア大学ローターアクトクラブの元会長です。

「ロータリーにはミレニアル世代が求めるものがそろっています。何より、同じ価値観をもつ人たちと知り合う機会があるんです。たまの息抜きにもなりません」とイーさんは話します。

若い職業人がロータリーにもたらす変化については、8ページをご参照ください。

クラブの強化や、社会奉仕の向上をめざしてロータリークラブが取り入れている変革については、後ページの「時代とともに変わりゆくロータリークラブ」、およびwww.rotary.orgをご参照ください。

数字で見るロータリー



2016年7月1日現在

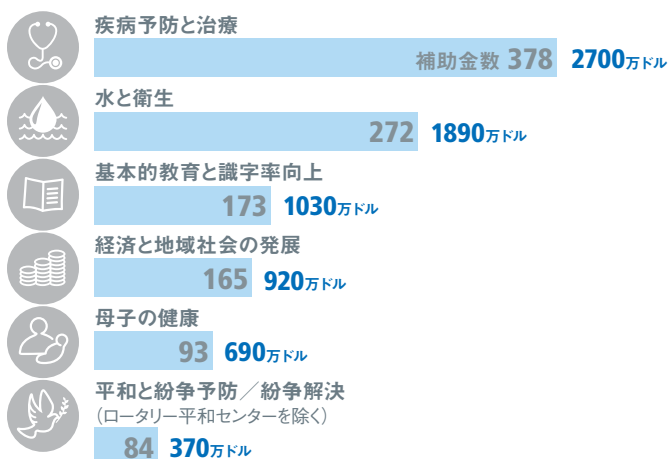
ロータリーの補助金

494件の地区補助金が、地元や国際社会のニーズに応えるため、地区における小規模、短期間の活動に充てられました。

2550万米ドル

1,165件のグローバル補助金が、ロータリーの重点分野において持続可能・測定可能な成果を残す大規模な国際的活動の支援に充てられました。

7600万米ドル **10.6%** 前年度から上昇 (グローバル補助金)



目標を達成するために

クラブのサポートと強化

ロータリークラブは、会員が友情を築き、事業で助けあい、地域社会に恩返しするために生まれました。誕生から一世紀以上がたった今も、この精神は2015年7月1日に立ちあげられた会員特典プログラム「ロータリー グローバル リワード」に受けつがれています。さまざまな製品やサービスの特典を受けられるだけでなく、会員が自身のビジネスで割引を提供できるので、賢く買い物して国内外のロータリアン同士が支援しあえるものとなっています。

人道的奉仕の重点化と増加

国際ロータリーの「ロータリーショーケース」サイトには、実施中のプロジェクトが35,000件以上掲載され、ロータリアンやローターアクターの活動が紹介されています。ロータリーは世界中の地域で人びとの暮らしをより良くしていますが、それを支えているのは、会員による1200万時間を超える奉仕、3億8000万ドルを超える寄付、約2億6500万ドル相当の物資寄贈です。

公共イメージと認知度の向上

ロータリーのポリオ撲滅活動は、BBCや『ピープル』誌、『ニューヨークタイムズ』紙をはじめとする大手メディアにとりあげられました。4月にはローマ法王が特別ミサでロータリーの活動について言及されました。世界的なプラットフォームで情報を発信することで、活動内容を世界に伝え、ロータリーが取り組む社会問題への認知を促しています。

クラブと地区用に、プロジェクトや成果について情報を発信するための効果的なリソースが用意されています。ロータリーブランドリソースセンターでは、ビジュアルやデジタルの資料作成に用いるテンプレートやツールが提供されています。新しいリソースも今後利用可能となる予定です。

ロータリーの補助金についての詳細は、www.rotary.org/jaをご覧ください。

ロータリー年度のプレゼント



会長と管理委員長からのメッセージ

晩年、アルバート・アインシュタインは教育についてのエッセイの中で、性格、自負心、個人のモチベーションについてこう語っています。「世間で言うところの成功が人生の目的だと若者に教えてはならない。というのも、成功者というのは仲間から多くのものを与えられる人のことだからだ。しかも、相手への奉仕とは比べものにならないくらい大きなものを受けとっている。しかし、人の価値は人から与えられるものではなく、人に与えるものでこそ測るべきなのだ」

ロータリーの会員は、アインシュタインの言う「世間で言うところの成功」をすでに収めています。それでも、アインシュタインと同じく、そういう意味での成功は人生の唯一の目的たりえないことを、私たちは知っています。人生の真の価値は与えられるものではなく、自ら与えるものにこそあるのです。

2015-16ロータリー年度も、ロータリアンは時間、労力、創造力、いつくしむ心を惜しみなく与えました。ロータリーの理事会、管理委員会、職員は、さらなる大望、有効性、プロ意識をもってロータリーの事業を推進できるよう、新たな効率性を求めて無駄なく賢明なリソース管理を心がけました。生産性を損なうことなく大きなコスト削減を実現し、「ロータリー グローバル リワード」など、ロータリー会員であることに新たな価値を生み出す方法を生みだしました。

ロータリー財団が100周年を迎えようとする今、全世界でのポリオ撲滅という最大の偉業が現実のものとなりつつあります。ポリオ撲滅は次の段階に移行しつつあり、この段階では週ごとの発生件数ではなく、発生件数ゼロの週を数えることとなります。ただし、全世界からポリオの撲滅が認定されるには、発症者ゼロを3年間保持しなければならないことを忘れてはなりません。常に警戒をおこたらずに、全力を注いでいかなければなりません。

ロータリーではまさに持てるものではなく与えるもの、世界で行ったよいこと、そしてよいことを行える能力によって人の価値をはかります。本ロータリー年度には、世界中のロータリアンが「世界へのプレゼントになろう」という呼びかけに応じてビジョンと固い決意を示し、かつてない価値と力を兼ねそなえたロータリーを協力して築きあげました。



国際ロータリー
2015-16年度会長
K.R. ラビンドラン



ロータリー財団
2015-16年度管理委員長
レイ・クリンギンスミス

時代とともに変わりゆく ロータリークラブ

有名な話ですが、ジョージ・バーナード・ショーはかつてこう問いました。「ロータリーはどこに行こうとしているのか?」そして、皮肉たっぷりにこう答えています。「昼食に行くところさ」。この皮肉屋の劇作家が今生きていたら、21世紀のロータリークラブは見分けがつかないことでしょう。昼食の席で地域社会が抱える問題を論じあうクラブもありますが、オンラインで奉仕プロジェクトの計画を立てたり、仕事帰りに集まって会員強化の方法を検討したりするクラブもあります。クラブの活動内容は変わっていませんが、アイデア交換やプロジェクトの計画、そして地域社会への奉仕の仕方は確実に変わってきています。

クラブ運営は以前よりも柔軟に

今日、例会は以前よりもずっと柔軟に行われています。ロータリー規定の改定案を審議、投票する2016年規定審議会は、例会を少なくとも月に2回開くかぎり、その時間や方法（オンラインか直接対面か）、例会の中止などはクラブの裁量で決定してよいことに同意しました。

ジェンダーの多様性をうながす

今日では、女性がロータリー全会員の20%を占め、クラブや地区で、また国際ロータリーの理事として、主要なリーダー職についています。

ロータリーで活躍する女性たちは、国連本部で行われた2015年ロータリーデーで特別に表彰されました。ノミネートされた110名のうち、6名が「Rotary Global Women of Action」を受賞。ジンバブエでの地域エンパワメントプロジェクト、アフガニスタンの学校の女子生徒480名に対する無償教育、グアテマラシティのゴミ捨て場に住む人たちへの教育や社会奉仕プログラムなど、さまざまな人道的活動が評価されての受賞です。

「彼女たちはロータリーの奉仕の限界を押しひろげて、みんなに刺激を与え、より一層の活動、貢献、成果をめざしてがんばる気持ちにさせてくれた」と、ラビンドラン国際ロータリー会長はそのリーダーシップを称えました。

若い職業人の心をつかむ

ミレニアル世代はほかのどの世代よりも豊かな奉仕の精神を持ちあわせています。若い人たちは、この世界に何かを残したいと模索する中で、職業や人生の師となるメンター（助言を与え、相談に乗ってくれる人）を探しています。今、ビジネスのあり方に変革を起こしつつあるのも、これらの若い職業人です。その一方で、ロータリーにはメンターや多くの人と知りあう機会、グローバル市民となるチャンスなど、1980年代、90年代生まれの人たちが求める価値があります。

エマニュエル・レイさんのロータリーでの経験は、若いときに始まりました。12歳の時にインターアクトに参加し、その6年後にはローターアクトの一員に。30歳を迎えたとき



アルゼンチン、ブエノスアイレス、ビジャ・デポートのロータリークラブの会員に語りかけるエマニュエル・レイさん。

写真：EMMANUEL REY

ロータリークラブへの入会方法や、草の根ボランティアの世界的ネットワークへの参加方法、新会員の推薦方法など、ロータリー会



Global Women of Action: (左から) デボラ K.W.ウォルターズさん、ルーシー・ホブグッド・ブラウンさん、ハシュラト A. ビガムさん、カースティン・ジェスカ・ソーワートさん、ラジア・ジャンさん、ステラ S. ドンゴさん。これらの女性は、何千人もの人を支援するために時間と専門スキルを捧げたことが評価され、ロータリーデーに国連で表彰されました。

に、ブエノスアイレス（アルゼンチン）のビジャデポート・ロータリークラブに入会しました。当初は、ローターアクトとロータリーの橋わたしとなるような若者のクラブを作りたいと考えていましたが、既存クラブに入会して彼自身が世代をつなぐ橋になることにしました。

この決断により、得がたい宝を手にするようになります。「70代の友人ができました。世代間の壁を打ちこわして協力しあい、互いから学びあって、一緒に知恵を出しあって地域に奉仕し、社会人として、また一個人として、充実した生活を送れるようになった」とレイさんは語ります。

現場からロータリーに変革を起こす

ロータリーに起こる変化の大半は、クラブが源となっています。米国ジョージア州メトロサバンナ・ロータリークラブは、一風変わった運営方法をとっています。例会には、月2回のビジネスランチ、地元レストランでの集い、会員が草の根ボランティアを行う奉仕活動の打ち合わせの3種類があります。クラブ会員増強委員長のマイケル・マクロードさんは次のように説明します。

「うちの会員は額に汗して働くのが好きなんです。……奉仕活動にもネットワーキングにも熱心です。例会の半分はソーシャルの集いや奉仕に関するもので、会員にも好評です」

毎週の例会への出席は、仕事と家庭の両立をはかろうとする会員にとっては難しいこと。このため、各自の予定に合わせてクラブに参加できるように、年に半数の例会に出席すればよいことにしています。



地元の児童養護施設の庭づくりにいそぐ米国ジョージア州サバンナのロータリアンたち。

写真提供：ROTARY CLUB OF METRO SAVANNAH

若者を応援し 若い職業人に活躍の場を

受賞プロジェクトにみる ローターアクトの活動力

当初、このローターアクト・プロジェクトは、HIV感染率が近年に人口の12%に達しているウガンダのラカイ県で、HIV/エイズ対策のために立ちあげられました。しかし、ブゴロビ・ローターアクトクラブがニーズ調査を2回行った結果、この地区のある村で異なる支援が必要とされていることが判明しました。

「この地域は水不足に悩み、学校は悲惨な状況で、医療センターはさらに劣悪な状態。特に産科病棟がひどかった」とアニタ・ムンクダネ・ローターアクトクラブ会長は言います。「想像を上回る深刻さでした」

そこで、スポンサークラブのロータリアンやローターアクトクラブの会員とともに、ウガンダ・ヘルス・マーケティンググループと協働して約700名の診察を行う予定で医療キャンプを設置。いざ開始してみると、1000名を超える患者が健康診断を受けにやってきました。



ウガンダ、ラカイ県のある村は、ウガンダ、ブゴロビ・ローターアクトクラブによる掘削孔のおかげで水源をあらたに確保しました。

写真提供：ROTARACT CLUB OF BUGOLOBI

また、地域が抱えるほかの問題にも取り組みたいと考えていたローターアクトたちは、リソースが不足する産科病棟に新品のマットレスを提供し、地元の小学校には机と椅子、制服、備品を寄贈しました。この小学校の児童の多くは孤児。水不足が教育の最大のさまたげになっていたため、掘削して村に水も引きました。これで安全な飲み水が確保でき、子どもたちの学習環境が整い、妊婦たちの環境も以前より改善されました。

この「1000 Smiles Kanabulemu Edition」プロジェクトでのすばらしい業績が評価され、ブゴロビ・ローターアクトクラブは卓越したローターアクトプロジェクト賞を受賞し、韓国で開催された2016年ロータリー国際大会で表彰されました。

万難を排して奉仕の旅に出るインターアクター

米国ニューハンプシャー州キーンのインターアクターは、ここ15年来、中央アメリカに位置するエルサルバドルの地震多発地帯で、耐震性の高い住宅を建てる手伝いをするために、毎年エルサルバドルを訪れていました。インターアクターとその提唱クラブの会員、そしてエルサルバドルのロータリアンが力を合わせ、90軒の住宅を建て、2軒の医療クリニック、3軒のベーカリー、5台の太陽光発電による浄水システムを設立。さらに、6トンを超える支援物資を提供しました。

しかし、2016年にこの地域で暴力事件が多発し、インターアクターは訪問を中止せざるをえませんでした。それでも何とかして奉仕活動をしたい、と計画を変更。寄贈物品の詰まった約22キログラムのスーツケースをそれぞれ抱えてニカラグアに出発しました。現地では、学校に水道水を提供する3塔の給水塔と、海底に魚のすみかを作るための人工リーフの建設に協力しました。また、3軒の学校の塗装も行いました。

若いリーダーや職業人のためのロータリープログラムの詳細はwww.rotary.orgをご覧ください。



ニカラグアの学校で購入した窓を設置するためにコンクリート壁を修理する米国ニューハンプシャー州キーンのインターアクター。

写真提供: INGRID AYALA

若いリーダーのためのロータリープログラム

インターアクト
12~18歳

20,364クラブ
468,372人の
インターアクター

**ロータリー
青少年交換**
14~19歳

80カ国から
8,700人以上の学生が
短・長期の海外
留学・活動に参加

**ロータリー
青少年指導者
養成プログラム
(RYLA)**

500,000人の
学生や若い職業人が
地区主催のリーダーシップ
開発プログラムに参加



ポリオ撲滅： 実現まであと一歩に迫る

パキスタンのイスラマバード・ロータリークラブ（メトロポリタン）の会員であるターバ・グルさん。ポリオワクチンが入った薬瓶を調べています。グルさんは、ロータリーが資金を援助する医療センターを運営しています。ここでは、ポリオ予防接種が産後の標準的医療の一部であることを地元の女性たちに教えています。

写真提供：KHAULA JAMIL

ポリオ撲滅まであと少し

世界的なポリオ撲滅活動の甲斐あって、すべての子どもがポリオのない世界で暮らせる日は確実に近づいています。2015年9月には、独立した世界保健委員会が、3種ある野生株のうち、2型野生株ポリオウィルスが全世界で根絶したことを公式に宣言。これにより、ワクチン由来ポリオウィルスのリスクがわずかにある経口生ポリオワクチンの世界的な停止にそなえ、3価経口ワクチンから2価経口ワクチンに切りかえられるようになりました。

ロータリーが世界保健機関、ユニセフ、米国疾病対策センター、ビル&メリンダ・ゲイツ財団といった世界ポリオ撲滅推進活動（GPEI）のパートナー団体とともにこの進展を祝う中、合言葉となったのは「慎重な楽観論」でした。ユニセフのアンソニー・レイク事務局長は、「活動を失速させてはならない」とパートナーに呼びかけました。「世界が紛争で分断され、かつてないほど人びとの結びつきがもろくなっているこの時代に、ポリオ撲滅は人類最大の偉業に数えられるだけでなく、さまざまなパートナーが共通の目標に向かって進み、一致団結して何かを成しとげられるという、稀有で貴重な例となるでしょう」

アフガニスタンとパキスタンでの成果

2015年にパキスタン北西部での軍事作戦で、100万人近くが家を失い、それによる大規模な移住が発生。これは、ポリオ撲滅活動の大きな障壁となりました。しかし、パキスタンのポリオプラス委員長アジズ・メモンさんをはじめとするロータリアンは、この状況に、2012年以降予防接種を受けていなかった85万人超の子どもへのワクチン投与の機会を見いだししました。

この重大な任務を成しとげるには、医療従事者が迅速に動いて子どもを見つけ、予防接種の記録を確認しなければなりません。そこでは、携帯電話が非常に重宝しています。ポリオプラスプログラムでは、ロータリアンなどの支援者からの資金を使い、医療従事者や地元の助産婦にモバイルデータの収集方法について研修を実施。これによ

携帯電話を使って予防接種の報告と母子の医療データを送信するパキスタンの医療従事者。

写真提供：KHAULA JAMIL

り、報告文書の必要性がなくなり、迅速なモニタリング、正確なデータ、戦略的分析が可能となりました。

携帯電話のほかにも、さまざまな新しい手段やアプローチが、アフガニスタンとパキスタンでのポリオ撲滅活動に採用されています。両国では、迅速な連絡を促すために緊急作戦センターが設置され、綿密な緊急計画が立てられています。

こうした技術刷新は成功の理由の一つとなっていますが、地元ロータリアンが地域で信頼を築き、子どもへの予防接種について親たちを説得していることも、大事な戦略の一部をなしています。献身的な医療従事者たちが最後の子どもにワクチンを投与したときにこそ、ポリオ撲滅が現実のものとなるのです。

「パキスタンにはまだ課題がありますが、現時点での成果には非常にうれしく思っています」とロータリーのインターナショナル・ポリオプラス委員会のマイケル K. マクガバン委員長は言います。





第3回世界ポリオデーのウェブ配信でポリオ撲滅運動について語る『タイム』誌の編集主幹ジェフリー・クルーガーさん(左)とCDCポリオ担当マネジャー、ジョン・バータフォイさん。

世界ポリオデー

10月、2015年世界ポリオデーがニューヨーク市からストリーミングでライブ配信されました。視聴者数は世界で5万3千人を超え、ソーシャルメディアを通じて獲得したサポーター数は推定1億4500万人。ロータリーとユニセフが共催したこのイベントでは、『タイム』誌のジェフリー・クルーガーさんが司会を務め、医療の専門家やロータリーのポリオ撲滅大使が登壇しました。ポリオ撲滅活動の進展を伝えるだけでなく、適切な予防接種をうけていない人にとってポリオウィルスは脅威でありつづけると警鐘を鳴らしました。

ポリオ撲滅後の世界

GPEIや熱意あふれる医療従事者、効果的な予防接種のおかげで、予防接種がなければポリオによるまひ障害に苦しんでいた1500万人以上が、今日、自分の足で歩いています。ポリオ対策にかかる費用がなくなれば、今後20年間に500億ドルものコストが節約され、この莫大な資金をほかの緊要な課題に充てることができます。

一方、ポリオ撲滅が実現できなければ、ポリオが再流行し、10年以内に世界中で毎年20万人がポリオを発病すると見積もられています。この恐ろしいシナリオを避けるため、世界中のロータリアンはポリオ撲滅という約束を守るべく全力で取り組みつづけています。

ポリオが撲滅された後も、この活動の財産は残ります。ポリオ撲滅のために開発したインフラやプロセスは、既には

しかやエボラなどの疾病対策に生かされています。ロータリーのビジョンとリーダーシップのおかげで、ポリオ撲滅後の世界では、僻遠の地に住む人びとも健康な生活を送れるようにするためのリソースや体制が整っています。



1985年以来、122カ国で25億人を超える子どもがポリオの予防接種をうけています。写真は、ナイジェリア、ティーガの子どもたち。写真提供: TADEJ ZNIDARCIC

「End Polio Now: 歴史に1ページを刻もう」キャンペーン

2018年まで、ロータリーがポリオ撲滅に直接投入する資金(年間3500万ドルまで)に対し、ビル&メリンダ・ゲイツ財団が2倍額を上乗せします。この資金によって、切実に必要とされている運営支援、医療スタッフ、研究所の設備、医療従事者と患者のための教育的資料が提供されます。

寄付が3倍になるポリオプラス基金へのご寄付は www.rotary.org/ja/give から。

ポリオ撲滅を支える

政府の支援を求めて

ポリオ撲滅には、現在までのロータリアンによる寄付と、ビル&メリンダ・ゲイツ財団による上乗せ寄付に加え、さらに15億ドルが必要となります。このため、各国政府からの支援に期待がかけられており、ポリオ撲滅への最終局面を迎えた今、アドボカシー活動（支援の働きかけ）が極めて重要とされています。

「ロータリーには政府も耳を貸す発言力がある」と話すのは、世界保健機関（WHO）のスニル・パールさんです。パールさんは、インドでのポリオ撲滅でロータリーが担った役割を念頭に、次のように語ります。「何か問題が浮上すると、ロータリーはかならず解決策を見つけます」

本年度、各国政府から心強い誓約がありました。

- 主要先進国を代表するG7は、世界ポリオ撲滅運動へのコミットメントを新たにしました。G7参加国による支援は1988年から2019年におけるGPEIの全資金の40%を占めます。
- 英連邦首脳首脳会議では、各国首脳がポリオ撲滅を今後も支援する意思を表明しました。参加国は30億米ドルを超える資金を提供しており、世界ポリオ撲滅運動を政治的に主導しています。
- カナダ政府はパキスタンのポリオ撲滅プログラムに4000万カナダドルの提供を約束しました。「カナダはパキスタン周辺のポリオ常在国をこれまでも支援してきました。たとえば、アフガニスタンでは700万人以上の子どもに予防接種を行い、タリバンの指導者たちに予防接種の重要性を伝えるカナダ主導のプロジェクトがあります」と、ロータリーのインターナショナル・ポリオプラス委員会のロバート S. スコット元委員長は言います。

- 米国議会は、2016年連邦予算のうち前年度増1000万ドルとなる2億2800万ドルを世界ポリオ撲滅活動に充てることを承認しました。

資金集めに奔走するロータリアン

ロータリアンは、ポリオ撲滅の完遂に必要とされるモニタリング、監視、教育、予防接種などの活動に尽力しつづけています。

ジョン・ヒューコRI事務総長、8名のRI職員、そして100人を超えるロータリアンが、米国アリゾナ州で開催された自転車レース（El Tour de Tucson）に出場し、約167キロメートルを走行。440万ドルの募金に成功しました。ビル&メリンダ・ゲイツ財団がこれに2倍の金額を上乗せした結果、ポリオプラスに計1320万ドルが寄付されました。

スイスのルツェルンで開催されたコンサート「Music for Life」では、ポリオ撲滅に30万ドルの募金が寄せられました。ロータリー主催のこのイベントでは、世界的に有名な指揮者ジョヴァンニ・アントニーニさんがバーゼル室内管弦楽団と共演し、南アフリカのピアニスト、クリスティアン・ベザイデンホウトさんが特別出演しました。

また、個人からの大口寄付も資金不足解消を大きく後押ししています。NFLジャクソンビル・ジャガーズの元オーナーで慈善家のウェイン・ウィーヴァー、ドロレス・バー・ウィーヴァーさん夫妻が、ポリオ撲滅に25万ドルを寄付。ウェイン・ウィーヴァーさんは、ポリオ撲滅運動が「大勢のロータリアンなしにはあり得なかったこと」と話します。ドロレス夫人も、「この病気を完全に撲滅しようというロータリーの活動を援助できるというのはうれしく、光栄なこと」と語ります。

ポリオプラスの募金のために米国アリゾナ州の自転車レースEl Tour de Tucsonに出場した国際ロータリーの職員と会員たち。
写真提供：© JAMES S. WOOD 2016



疾病と闘い 母子の命を救う

蓄積したデータのおかげで ナイジェリアの産科病棟の死亡率が低下

『International Journal of Gynecology and Obstetrics (国際産科婦人科ジャーナル)』によると、ナイジェリアの妊婦の半数近くが妊婦検診をうけておらず、このことが非常に高い新生児の死亡率につながっています。また、5歳未満であまりに多くの子どもが亡くなってしまったため、女性がより多くの子どもを生み、そのため妊産婦の死亡率が悪化するという悪循環も生みだしています。このような統計を受け、「人口と開発に関するロータリアン行動グループ」は、母子の健康を最優先事項のひとつに掲げました。

2005年から2010年まで、同グループはナイジェリアでロータリーが長年行ってきた家族計画と新生児と母親の健康のための医療データを収集するパイロットプロジェクトを実施しました。問題の根本原因を突きとめ、母子の健康に影響するシステムを改善するために、罹患率と死亡率の原因を調べました。

こうして、高い死亡率をもたらす3つの要因を特定。これらは、農村部の人びとが病院に通えなくなる長い雨季、医療教育と熟練した医療提供者の欠如、そして病院の資金不足です。この調査結果を基に、研修を強化し、不可欠な医療機器を提供し、家族計画の支援を行いました。こうして、妊産婦の死亡率が60%低下し、新生児の死亡率が15%下がりました。

2015年には、母子の健康を改善するために、ナイジェリアの4つの州が医療制度にロータリーの品質保証モデルを公式に採用。これにより、どこで実施しても妊産婦死亡率を激減させたプログラムが今後も続けられていくこととなりました。

ローテク、ハイテクの合わせ技で マラリア予防 (アマゾン流域)

テクノロジーは、使わなければ意味がありません。「ノーバイト・ノーマラリア蚊退治プロジェクト」では、ベネズエラの人里離れた住民の地域社会で、マラリアの罹患率を80%低減させました。このプロジェクトの成功のカギは、一村ごとに、蚊帳の使用をさまたげるさまざまな問題を解決したことにあります。

蚊帳は予防医学の奇跡と言えます。米国フロリダ州キービスケーン・ロータリークラブのステイヴ・ベイカーさんは、アマゾン盆地で現地の人びとと協力し、一家全員が使えるハンモックやベッド用の蚊帳を設計。殺虫剤を塗布してあるので、蚊帳にとまる蚊を殺す作用もあります。宣伝、啓蒙キャンペーンを行ったことで、住民はマラリアと蚊帳の使い方について理解するようになりました。また、22の離れた村々に散在するペモン族の人を見つけて様子を確認するために、GPSも活用しました。

「研修に参加してもらい、適切な使用法を覚えてもらう必要があります。研修後に追跡調査を行うかどうかで、罹患率が50%下がるか、80%下がるかの違いがあります」とベイカーさん。彼が所属するクラブは、ベネズエラのプエルトオルダス・ロータリークラブとこの世界的な一大プロジェクトを共同提唱しています。

長持ちする殺虫加工の蚊帳をロータリーが7500枚配布。ベイカーさんいわく、この村は「夜になると蚊退治マシン」へと変貌するそうです。「人びとが吐く息に誘われて蚊が寄ってきて、蚊帳にとまってポトンというわけです」。ローテクとハイテクの手法を組みあわせることで、より多くの人命を救い、マラリアの感染率も低くなりました。

「段階的に少しずつこのモデルプロジェクトを医療システムに組みこめば、ナイジェリアのほかの州も評判を聞き、自分たちの医療制度に組みこもうとする。それが私の夢です。時には夢が必要です。それに、夢はかなうこともあります」

— 人口と開発に関するロータリアン行動グループ、ロバート・ジンザーさん



健康診断で母親とその娘の体重を測るナイジェリア、カノの助産婦。
写真提供：TADEJ ZNIDARCIC

ロータリーの補助金と、母子を救うロータリーの取り組み、または疾病予防・治療の支援方法に関する詳細は www.rotary.org をご覧ください。

きれいな水、衛生を提供する

高価なペットボトルの水にさよなら： メキシコの濾過プロジェクト

2015年に、ロータリーの「H2OpenDoors」プログラムがメキシコ、サンミゲル・デ・アジェンデで実施され、きれいな水が安価で提供されるようになった上に、重要な社会事業のための収入源が確保されました。米国カリフォルニア州のペニンシュラサンライズ・ロータリークラブ（レッドウッドシティ／メンローパーク）の会員は、太陽光発電によるサンスプリング浄水システムを設置。10リットル入りの再利用可能な水差しで採水できます。維持管理に手間がかからず、耐用年数は10年です。

この浄水場でつくられた水の価格は、地元の他所の3分の1です。これは、ボトル飲用水に大きく依存するメキシコとしては、大きなコスト節約となります。年間20万米ドルの収益は、僻村部に暮らす障害をもつ子どもや大人のためのリハビリテーションセンター「CRISMA」の支援にあてられます。



メキシコ、サンミゲル・デ・アジェンデで太陽光発電の浄水システムを組み立てる米国カリフォルニア州レッドウッドシティのロータリアン。
写真提供：JON KAUFMAN

ロータリーが支援するH2OpenDoors浄水場は、ほかにもグアテマラ、ハイチ、フィリピンなどの国々で、毎日遠く離れた水源に採水のため通っていた人びとの暮らしを助け、水媒介の病気に感染する危険性を減らしています。

学生や教師がロータリー会員24名とともに浄水システム設置の旅に参加。メキシコのビセンテ・フォックス元大統領が設立したリーダー養成学校で開催されたセッションにも出席しました。元大統領はここ15年間でメキシコの方における水の供給が大きく向上したと語っています。

授業出席率をあげる 「WASH in Schools」プロジェクト

すべての学校が独自の衛生システムを完備し、生徒に徹底した衛生習慣を教えたなら、子どもの健康と教育は向上するでしょうか？ ロータリーの「WASH in Schools TargetChallenge」（学校における水と衛生チャレンジ）は、この問いの答えを見つけようとしています。この試験的プロジェクトは、水、保健衛生（英語ではwater、sanitation、hygieneの頭文字をとってWASHと呼ばれる）に関する持続可能なプロジェクトの開発をロータリークラブに促すために、ロータリーの2つの重点分野（基本的教育と識字率向上、水と衛生）における専門知識とリソースを活用して立ちあげられました。

この新しいプログラムは、世界中ですでに進行中のロータリー活動の集大成となるものです。たとえば、マリではグローバル補助金の支援を受けたWASHプロジェクトによって、1万5千人の生徒の学校生活が改善され、その約半数は女子生徒。目標は、汚染水の飲用による罹患率の低下、手洗いと個室トイレ（特に女子トイレ）の提供、総合的な月経衛生管理プログラムの実施です。

このプロジェクトは、米国カリフォルニア州とネバダ州のロータリークラブ、マリのロータリークラブ、そして水と衛生に関するロータリアン行動グループの協同により実施されました。

ロータリーの補助金や、水と衛生分野への寄付に関する詳細はwww.rotary.orgをご覧ください。



新しい手洗い場で手を洗うグアテマラの生徒たち。



アクアプラス浄水場できれいな水をくむ
ハイチの子どもたち。
写真提供：ALBERTO SCHIRALDI

ロータリーの補助金や、ロータリーによる地元経済の発展と教育支援の方法について、
詳しくはwww.rotary.orgをご覧ください。

地元経済の発展を促し 教育を支援する

ハイチ農村部の経済発展のカギとなるのは水

地方の経済発展には、多面的なアプローチが必要となる場合が多いと言えます。イタリアのロータリアンがハイチのトルベッシュにある地域社会の支援に乗りだすと、住民たちが直面するさまざまな問題があることがわかりました。

水の供給がないだけでなく、深刻な土壌浸食と、不衛生な習慣による空気と水の重度の汚染という問題も抱えていたのです。そのため、地元でとれる農作物は広域で流通するための基準を満たさず、ビジネスとしての農業は細々としか行えない状況でした。

この実状を知って、ロータリーは「アクアプラス」プロジェクトを立ちあげました。このプロジェクトは収穫量を向上させ、飲料水を復旧させ供給量を増やすことで地元民の経済を安定させ、土地の有効活用法を教えるというものです。プロジェクトスポンサーは地元の住民やロータリアンと協働し、地元で調達した製品や機器、それに労働力を活用しました。

アクアプラスプロジェクトにより家庭用、農業用として使える安全な水が提供され、栄養価の高い多様な農作物を生産する能力が向上しました。また、農作物を処理、保管、販売するための協同組合の設立にも助力しました。ハイチ政府はアクアプラスが他地方にも適用できることに気づいているので、このプロジェクトはハイチに今後多大な影響をもたらすことでしょう。



プエルトリコで1万人の子どもたちに 読み書きを教える

プエルトリコの「Head Start」と提携して、ロータリー提唱のプロジェクトでは触って文字の音を学ぶことで子どもたちの知能を刺激しようという試みを実践しています。「Souns」プログラムでは、子どもたちは遊びながら読み方、書き方を覚えます。

研究によると言語の習得にもっとも適した年齢である0歳児から5歳児のために開発されたこのプロジェクトでは、5万人の子どもたちにSounsプログラムを用いています。プログラムを開発したのは米国ジョージア州ピーチツリーシティ・ロータリークラブの会員で教育者のブレンダ・エリクソンさんです。ロータリー財団の補助金で材料を購入し、有志のロータリー会員が地元の住民にトレーニングを実施し、トレーニング受講者が今度はプロジェクト対象の学校の教師にトレーニングを施します。

Sounsプログラムでは大きな壊れにくいプラスチックでできた小文字のアルファベットを使います。子どもたちは文字の名前ではなく、その文字にもっともよく使われる音でアルファベットを覚えていきます。五感のすべてを使うことで、子どもたちは文字を使って言葉を作りながら、文字をより深く理解することができるのです。先生がついている「遊びの時間」では、先生は子どもたちをひとりずつ、または少人数のグループで見ます。

「子どもたちは物の名前をすぐに覚えてしまうんです」とエリクソンさんは言います。「子どもたちの知能を信じてあげれば、文字と音の関係性もすぐに理解できます。遊びというのは最良の教師で、手は脳と直接結びついています」

文字の形と音のつながりを学ぶ
プエルトリコの子どもたち。

写真提供：BRENDA ERICKSON



平和な明日を築く

ウガンダのアジュマニで南スーダン難民が受け入れ先と穏やかな関係を築けるように働きかけているロータリー平和フェローのゴドフリー・ムカラジさん（クイーンズランド大学、2004-2006年のフェロー。写真中央）。
写真提供：GODFREY MUKALAZI

ロータリー平和センターの卒業生が 難民やビジネスの問題を解決

ドイツでは何千人ものシリア難民が亡命許可がおりるのを待っています。そんな中で、ロータリー平和センターの一人の卒業生が、難民の職探しや新しい文化に溶けこむのを手伝うための創造的な方法を編みだしました。

ドイツのテクノロジー会社が熟練コーダーへの高い需要を抱えている一方で、難民は仕事を必要としている…。この現状を見たアンネ・リヒャルトさんは、コーディング専門学校「Refugees on Rails」を立ちあげ、難民が手に職をつけられるように技術を教えて人生の再出発を支援し、ドイツの熟練工の人口を増やしています。

母国デンマークを離れて以来、リヒャルトさんは難民援助活動を次々に行っており、この学校は彼女が手がけた最新のプロジェクトです。また、スタンフォード大学の「Peace Innovation Lab」（平和・変革研究所）をベルリンに設立し、NGO、起業家、スタートアップ、IT業界人などのコラボレーションを促進しています。Refugees on Railsを主催しているのもこの研究所です。

リヒャルトさんは、東京の国際基督教大学でロータリー平和フェロースhipを卒業後、研究所の設立に携わりました。ロータリー平和フェローの90%が、リヒャルトさんと同じように平和推進や紛争解決の道に進んでいます。



ロータリー平和フェローのアンネ・リヒャルトさん（国際基督教大学、2010-2012年のフェロー。写真左）とレベッカ・バーレットさん（デューク大学・ノースカロライナ大学チャペルヒル校、2014-2016年のフェロー）。

写真提供：ANNE KJAER RIECHERT

ロータリー平和フェロー卒業生が 教育促進のために図書室を創設

ラビア・ラジャさんは、識字率が60%以下というパキスタンで図書室を創設しています。パキスタンは義務教育制度を採用しているものの、多くの学校が資金不足に苦しみ、必要な支援が得られず、出席率も低いのが現状です。ラジャさんの図書室は、地方に住む子どもたち（とその親）がカラフルなクレヨンや飛びだす絵本などを初めて手にとる場となっています。

経済開発を研究したラジャさんは、パキスタンの人びとが起業について学び、マイクロファイナンスの融資を受けられるように、「Sunshine Consulting Welfare Organization」を設立しました。その後、2011年にバンコクのチュラロンコン大学で短期ロータリー平和センタープログラムを修了したラジャさんは、教育に関心を移し、3カ所の施設で図書室やコンピューター室を創設しました。

「マイクロファイナンスの場合、何か問題が起きるかもしれません」とラジャさんは説明します。「それに、ゼロからスタートしないといけない。けれども、一度受けた教育は、決して失うことがない。教養は深まるばかりです。……生きているかぎり、自分の一部でありつづけます」



写真提供：RABIA RAJA

ロータリー平和センターについて、詳しくはwww.rotary.orgをご覧ください。

水のシンポジウムで中央アジアの火種が鎮火

水不足など、多くの問題により地域の平和は脅かされています。ロータリー主催の中央アジア水シンポジウムでは、アフガニスタン、イラン、カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、ウズベキスタンなど、アラル海流域の国々から水の専門家が集いました。

無計画性や水管理の失策はこういった国々に影を落とし、紛争の火種をまいています。ロータリー財団のグローバル補助金によるこのシンポジウムでは、対話の場を提供し、協調によるメリットを説き、参加国の間の協力関係を築きました。

ロータリーの活動を支える

メジャードナー夫妻が語る ロータリー財団への寄付の力

マーティ・ヘルマンさんは、6つの重点分野すべてが平和に集約されると考えています。その信念に従って、これまでロータリーの平和センタープログラムへの支援を人びとに呼びかけてきました。

2012-13年度に第7780地区ガバナーを務めたマーティさんと夫のフランクさんは、ふたりとも、米国メイン州ブースベイハーバー・ロータリークラブの会員であり、ロータリーメジャードナーで、遺贈友の会会員でもあります。また、夫妻が管理する小さな家族財団がロータリー財団の大口法人スポンサーになれるよう、戦略的に運用を行ってきました。

オットー&フラン・ウォルター財団との活動を通じて、夫妻は田中作次記念ロータリー平和フェロシップ基金へのマッチング寄付チャレンジを主導。2016年末までに、このチャレンジで平和センターのために100万ドルの募金が集まると見込まれています。

ロータリーのシェアシステムこそ、ロータリー財団の支援を行うべき強力な理由だとヘルマン夫妻は言います。「ロータリー財団の資金の使い道を決定するのは、私たちのような普通のロータリアンなのだと知ったとき、また、数えきれないほどの会員ボランティアによって貴重な資金の大半が直接現場で生かされていると実感したとき、ロータリー財団への寄付はほかの人的団体への寄付よりもずっと大きな力を秘めていることに気がきました」とマーティンさんは説明します。



ロータリーとオットー&フラン・ウォルター財団の支援により設置されたウガンダのロータリーテクニカルセンターの新しい水槽の前に立つマーティ&フランク・ヘルマン夫妻。

写真提供：MARTY HELMAN

「世界でよいこと」をするためにロータリーの活動にご協力ください。 www.rotary.org/ja/give

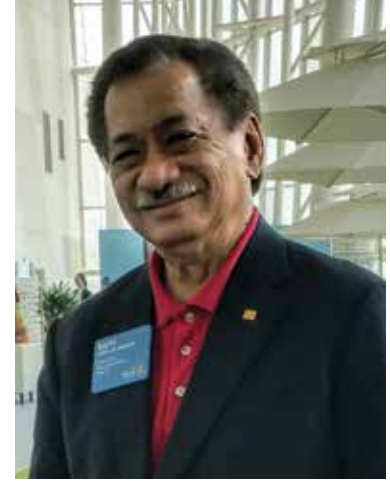
財団への寄付によって視点が変わる

ラファエル・ガルシアさんは、ロータリー入会後数年間は、ただ名だけの会員だったと言います。そんな彼を変える出来事がありました。「いつものように例会を欠席したとき、クラブ会長に選ばれたのです」。それから真剣に活動に取り組むようになり、フィリピン、リサール州パシッグ・ロータリークラブの会員数を35名から78名に増やし、そのうちのふたりを説得してロータリー財団の大口寄付者になってもらいました。

それでも、ガルシアさんは財団への寄付の意味を本当には理解していませんでした。しかし、159戸の住宅と医療、歯科、デイケア施設がそろったセンターがある村を建てたクラブプロジェクトを通じて、会員からの寄付が実際にどう役立てられているのかを目のあたりに。こうして、自ら大

口寄付者になり、次にアーチ・クランフ・ソサエティのメンバーとなったとき、ガルシアさんはクラブだけでなく、財団を支援することの重要性を悟りました。

「つまるところ、寄付とはどれも世界でよいことをするためのもの」とガルシアさん。「しかし、ロータリー財団への寄付は、人類の向上のためのものです。これは、私一人でできることではありませんが、ロータリー財団への寄付を通じて、ロータリーが世界中で行っているすべてのよいことに参加できるのです」



写真提供：RAFAEL GARCIA III

2015-16年度にアーチ・クランフ・ソサエティ (AKS) に入会した方々 (敬称略)

管理委員プラチナサークル

(寄付額2,500,000~4,999,999ドル)
Chehab H. and Bricia El Awar, USA

財団サークル

(寄付額1,000,000ドル~2,499,999ドル)
Edgar D. and Caroline W. Gifford, USA
Clifford N. Taylor, † USA
Herbert and Janice Wilson, USA

管理委員長サークル

(寄付額500,000ドル~999,999ドル)
Ghim Bok Chew and Phyllis Wong, Singapore
David and Dede Del Monte, USA
Mark A. † and Cheryl Dobbs, USA
J. Randolph † and Lois Y. Gambill, USA
Eugene F. † and Carole A. Kralicek, USA
Tomoko W. and Michael G. Malaghan, USA
John and Deanna Price, USA
Stanley † and Frances † C. Quon, USA

管理委員会サークル

(寄付額250,000ドル~499,999ドル)
Olajide and Patricia A. Akeredolu, Nigeria
Phillip R. and Barbara F. Albright, USA
Nagendra Prasad and Meera B.L., India
Gopal and Bharathi Balasubrahmanyam, India
Kalyan Banerjee and Binota Banerjee, India
Gary † and Leslie Benmark, USA
Michael E. and Judith T. Berlow, USA
Fred † Cotton and Bette † Cotton, Canada
Faye and Derick † Cran, Tanzania
Marcus B. and Margo J. Crotts, USA
Gen. Theophilus Y. and Daisy Danjuma, Nigeria
E. Ely and Phyllis N. Driver, USA
Ross V. and Lynn Forgione, Australia
羽部 大仁, 日本

Robert W. Hagan, USA
G. Holger and Anne C. Hansen, USA
David and Avisha Harilela, Hong Kong
James B. and Carolyn L. Hathaway, USA
Sharon L. Heinrich, USA
Jose Manuel Herrero † and Ma. Cristina Carvajal Argudin, † Mexico
Dennis Robert Hite and Nancy Simonette, USA
Ching-Huei Horng and Shu-Yann Chuang, Taiwan
Po-Yen and Hsiu-Mei Horng, Taiwan
Dai Liang and Helen Hou, Taiwan
Mu-Tu Hsieh and Hsin-Chih Lin, Taiwan
Yo-Liang Hu and Su-Lien Yang, Taiwan
Manoj N. Israni, India
Jerry L. Johnson, † USA
Arvind and Rashmi Jolly, India
Roop and Beena Jyoti, Nepal
Bimal and Hiral Kantaria, Kenya
Rasik and Usha Kantaria, Kenya
Emmanuel and Resty Katongole, Uganda
Om Prakash and Sneh Prabha Khanna, India
Peter YS and Kristen HY Kim, USA
Seok-Hwa Kim and Kyung Sook Jo, Korea
Nagesh and Uma Kothanur Puttasiddegowda, India
Po-Te, Kuo and Su-Yueh, Kuo Wei, Taiwan
Kuo, Tewen (SongJing) and Kuo-Chen, Lihsueh, Taiwan
Janice H. and Matthias C. Kurth, USA
Won Kap Lee, † Korea
Brass Kuo-Hua Lin and Jammy Chin-Min Chang, Taiwan
Luan-Fong Lin and Kun-Pai Hsu, Taiwan
Mohammed Ali Mahbub and Gule Afruz Mahbub, Bangladesh

Bahri Baldevraj and Janaki Malhotra, India
Kaushik and Geeta Manek, Kenya
Peter and Helen Maxwell, USA
Halil Mehmetoglu, Turkey
Aziz Memon and Samina Aziz, Pakistan
村上 有司・和子, 日本
Amy and David Nicholson, USA
Shravan NS and Lavanya NS, India
Naranbhai G. and Savitriben N. Patel, Nigeria
Louis P. † and Barbara J. Piconi, USA
Asha Prasannakumar and B.N. Nanjundaiah Prasanna Kumar, India
Saif and Rauzat Qureishi, India
Manavazhi Radhakrishnan and Rema Radhakrishnan, India
Bhashkumar D. and Zipporah F.P. Rajan, Sri Lanka
James W. Roxlo and Rita W. Heckrotte, USA
Marina "Malia" Schwartz, † USA
Susan G. and Robert J. Shelley III, USA
Punam and Parag Sheth, India
Bruce and Johrita Solari, USA
Beth and Tony Stubbs, USA
Pao-Tang (Gas) Tsai and Wan-Chin (Annie) Hsieh, Taiwan
Mohan K. and Kawita Vaswani, Singapore
Norman R. and Marjory A. † Veliquette, USA
Karen K. Wentz and Ron Appuhn, USA
Charles and Phyllis Wilson, USA
Steve Wilson and Mirja Lepisto-Wilson, USA
Peter Shiu-Hoi Wong, Hong Kong
Holin Wu and Claire Hsu, Taiwan
Gregory Yank and Catherine Taylor Yank, USA

† 故人

ロータリーの偉業を支えるもの

「ワン・ロータリー」 一致団結して使命を完遂

国際ロータリーとロータリー財団は独立した法人で、それぞれが活動する国々の法律や会計基準を順守しています。しかし、理念上も、実際上も、ひとつのロータリーとして機能しています。ロータリー会員は会費を通じて国際ロータリーを支援し、寄付を通じてロータリー財団を支援しています。人道的な国内プロジェクトや世界的プロジェクトが最大限の成功をおさめられるよう、世界中のクラブと地区は、寄付した資金を地区補助金やグローバル補助金として活用しています。ひとつのロータリーとして一致団結することで、ロータリーは使命を果たすための強い土台を築いています。

世界200以上の国や地域、およびに29の通貨圏で活動する国際的組織として、ロータリーは資金管理を真剣にとらえています。資金管理は、世界中で資金がうけとられる瞬間に始まり、賢明な投資を通じて資金が運用されます。また、人びとの人生を変えるようなプロジェクトに生かされる補助金のため、またはプログラムや会員への支援業務に資金を活用する際にも、慎重な資金管理が行われています。

ロータリーの収入

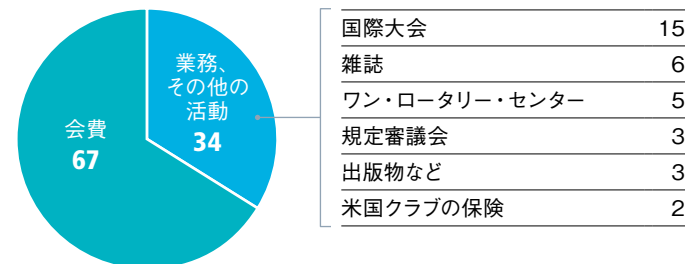
会員組織であるロータリーでは、その費用を主に会費で賄っています。2015-16年度は、収入の3分の2以上が会費により、約3分の1が国際大会（1500万ドル）や規定審議会（300万ドル）などのサービスや活動により生み出されました。一般的に、こうした活動での収入は、その関連費に充てられます。第3の収入源は投資収益ですが、これは変動が大きく、世界経済の要因により年度ごとに異なります。詳しくは、「投資」をご覧ください。

ロータリーの例会で集められる少額の寄付から、百万ドル単位の多額の寄付まで、ロータリー財団への寄付がロータリーの使命を支えています。2015-16年度、ロータリ

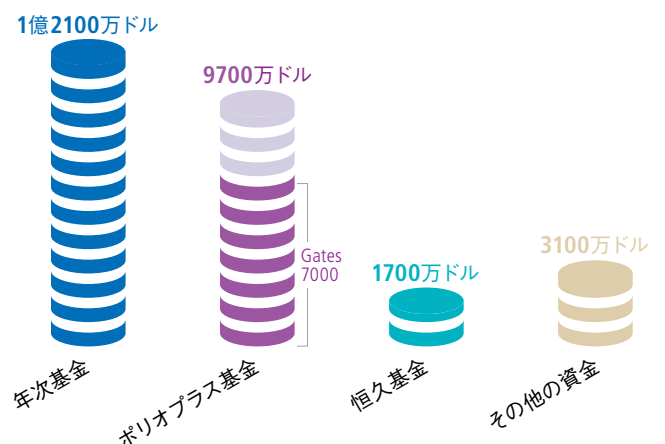
アンは1億2100万ドルを年次基金に寄付しました。また、ポリオプラス基金には2700万ドルを寄付しました。ビル＆メリンダ・ゲイツ財団からの支援やその他の資金源を含め、9700万ドルがポリオ撲滅運動の資金として集められました。また、ロータリー財団には、プログラムを永続的に支えていくための恒久基金もあります。2015-16年度には、1700万ドルが恒久基金への即時の寄付として寄せられました。

国際ロータリー収支報告

(単位：100万ドル)



ロータリー財団への寄付



ロータリーの財務について詳しくはwww.rotary.orgをご覧ください。

投資

2015-16年度終了時点で、ロータリーの資産は10億ドルを超えています。財団管理委員3名、投資を専門とするロータリー会員6名、RI財務委員会を代表する2名からなる投資委員会が、ロータリーの投資の全局面を監督します。国際ロータリーと財団に投資について助言し、ロータリーの投資を見守る外部の投資コンサルタント会社も起用しています。ロータリーの資金は経験豊かな専門家によって入念に管理されており、ロータリーの使命を支え、長期的な安定をもたらすために慎重に投資に充てられます。

ロータリーの一般資金は、リスクを避けるためにさまざまなポートフォリオに分散投資され、その収益は、会費を補うかたちで、クラブと地区への支援に使用されます。

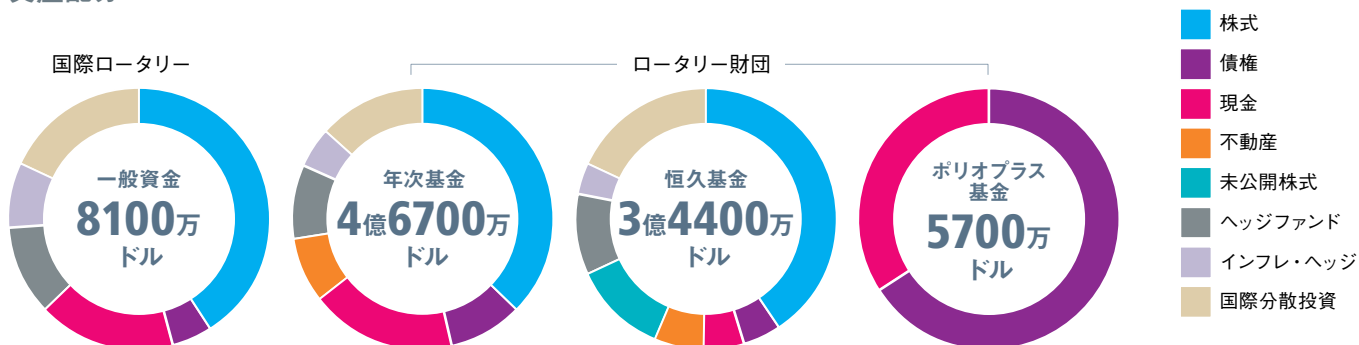
年次基金への寄付は、運営費を支えるために3年間の投資期間を経てから、地区や財団がプロジェクトや補助金に利用できるようになります。

ポリオプラス基金の資金は、低迷期に元金を保全するため、短期の確定利付証券への控えめな投資に充てられます。寄付はポリオプラス補助金を通じて適切に配分されます。

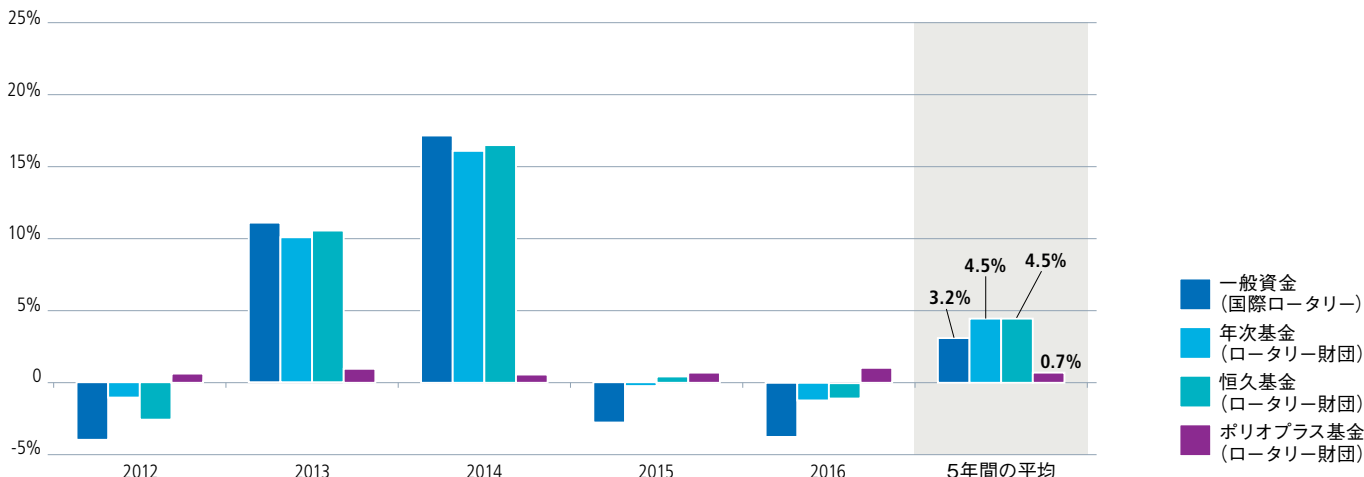
恒久基金への寄付は元金となって恒久的に維持され、投資収益が財団プログラムを継続的に支えます。

投資の方針や実績を含む詳しい情報は、www.rotary.org/jaでご覧ください（キーワード検索で「投資」または「investments」とご入力ください）。

資産配分



純投資収益



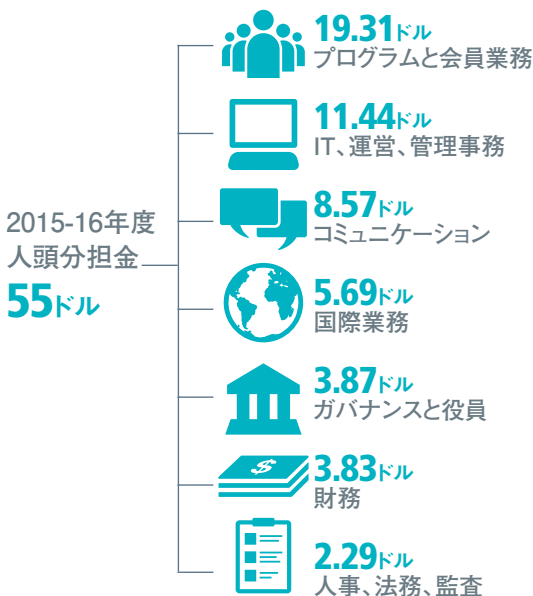
支出

国際ロータリーの収入は、運営費だけでなく、奉仕などの活動に充てられます。運営費には、ロータリアンや、プログラムや奉仕活動を支援する職員の日常的な活動が含まれます。特に、地区ガバナーや国際協議会での地区ガバナーの研修、国際コンプライアンス活動、登録、ロータリーが活動する国々で義務づけられている報告、ローターアクターやインターアクターとの関係強化による次世代ロータリアンの参加促進、ロータリーのプログラムやボランティアを支える職員などが挙げられます。

規定審議会の会費は、3年ごとに開かれる審議会の活動に充てられます。国際大会での余剰収入は先々の大会での資金不足にそなえて蓄えられます。その他の活動による余剰収入は、一般運営費に充てられます。

理事会は戦略的イニシアチブの予算を承認することもあります。2015-16年度の戦略的イニシアチブには、地域別会員増強計画、ポリオ撲滅活動とロータリー財団のコミュニケーション支援などがありました。

人頭分担金の使途



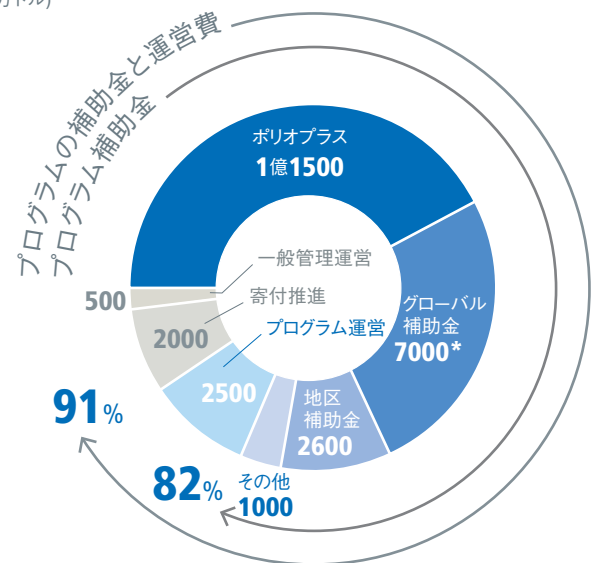
ロータリー財団は、不況を乗り越えられるよう、独自の体制をとっています。年次基金は3年周期で投資・活用されるため、クラブと地区は協力してプロジェクトを立案し、地区財団活動資金(DDF)を地区補助金やグローバル補助金に配分します。年次基金の投資収益は、通常、寄付推進や一般管理費を十分にまかなえます。ただし、投資市場の業績がふるわない年には、ロータリーの活動が滞ることがないように、年次基金への寄付と運営予備費からの最大5%を活用することがあります。投資収益が好調に戻った後で、年次基金と運営予備費の補充が行われます。

ロータリーでは、資金管理の一環として、コストを節約し、資金の効果を最大限にするための方法を継続的に模索しています。2015-16年度には、業者との交渉により、経費を180万ドル削減しました。

人びとの生活に変化をもたらすロータリーの活動は、会員をはじめとする支援者からの寄付によって支えられています。支出の82%は財団プログラムに使用され、9%がプログラム運営費に充てられています。このことは、ロータリー財団の支出の91%が、財団の使命を支えるプログラムと補助金に使用されていることを意味します。

ロータリー財団の支出

(万ドル)



*返金その他調整後

ロータリーの財務について詳しくはwww.rotary.orgをご覧ください。

ロータリー財団には、財団専門家グループと呼ばれる有志ロータリアンから成るグループがあります。このグループのメンバーは、クラブや地区が効果的な奉仕プロジェクトを計画、実施できるようサポートします。また、財団資金が適切に使用されていることを確認し、管理委員会を援助します。メンバーはいずれも、補助金に関する豊かな知識・経験だけでなく、財務監査と6つの重点分野のいずれかに関する専門知識を有しています。

ロータリー財団と8つの協力財団は、それぞれの国で運営に関するすべての法律と規制に従っています。国際ロータリーでは、会費を適切に処理するために、世界8カ所の事務局がクラブへの支援を提供しています。

また、ロータリーでは毎年、正確な財務報告書を作成するために、外部業者による監査を受けています。これまで一貫して無限定適正意見という評価を得ています。監査済み財務諸表、税金申告、会長・理事・管理委員の経費を含む、2015-16会計年度の財務情報は、www.rotary.orgでご覧ください（キーワード検索で「財務」または「financials」とご入力ください）。

ロータリーのもっとも大切な財産は会員です。会員はクラブを通じて地域社会を支援し、向上させることで、国際ロータリーの使命を遂行しています。ロータリー財団のリソースにより、クラブは人道的活動を拡大し、変化や革新をもっとも必要としている人びとに届けることができます。

国際ロータリー 収支報告

2015会計年度と2016会計年度（6月30日現在、単位：1000ドル）

収入	2015	2016
会費	\$ 65,386	\$ 67,459
投資収益(損失)	(2,472)	(2,956)
業務、その他の活動	22,822	33,571
収入合計	\$ 85,736	\$ 98,074
支出		
運営費	\$ 66,144	\$ 69,417
業務、その他の活動	22,961	27,560
一般剰余金	1,942	6,158
支出合計	\$ 91,047	\$ 103,135
為替差損	\$ (2,651)	\$ (1,188)
年金関係の調整額	\$ (4,320)	\$ 4,320
純資産の増加(減少)	\$ (12,282)	\$ (1,929)
純資産(期首)	\$ 140,798	\$ 128,516
純資産(期末)	\$ 128,516	\$ 126,587

ロータリー財団 収支報告

2015会計年度と2016会計年度（6月30日現在、単位：1000ドル）

収入	2015	2016
寄付	\$ 268,903	\$ 265,616
投資収益(損失)	3,287	(6,653)
補助金、その他の活動(純額)	(789)	(787)
収入合計	\$ 271,401	\$ 258,176
支出		
プログラム補助金	\$ 224,322	\$ 221,147
プログラム運営	20,886	25,223
寄付推進	15,804	19,421
一般管理運営	4,854	5,247
支出合計	\$ 265,866	\$ 271,038
為替差損	\$ (8,085)	\$ (6,419)
年金関係の調整額	\$ (3,394)	\$ 3,394
純資産の増加(減少)	\$ (5,944)	\$ (15,887)
純資産(期首)	\$ 951,965	\$ 946,021
純資産(期末)	\$ 946,021	\$ 930,134

活動のパートナー

ロータリーは世界各地で人道的活動に取り組むため、多くの国際機関、非営利団体、教育機関と協力しています。詳しくは、www.rotary.orgをご覧ください。

ポリオ撲滅活動

ロータリーは、以下の組織とともに、世界ポリオ撲滅推進活動 (GPEI) で中心的役割を担っています。

- 世界保健機関 (WHO)
- ユニセフ
- 米国疾病対策センター
- ビル&メリンダ・ゲイツ財団
- 世界各国政府

国連

ロータリーは、国連や国際組織との協力を強めるため、代表者を各団体に派遣しています。

戦略パートナー

- 米国国際開発庁 (USAID) : RIとUSAIDによる国際H2O協力
- ユネスコ水教育研究所 (UNESCO-IHE)

奉仕パートナー

以下の団体は、各地のロータリークラブと協力して活動を行っています。

- 米国平和部隊 (Peace Corps)
- ドリーウッド財団のイマジネーション・ライブラリ
- グローバル・フードバンキング・ネットワーク
- YSA (青少年活動を推進する米国団体)

プロジェクトパートナー

「シェルターボックス」は、災害救援活動におけるロータリーのパートナーです。

ロータリー平和センター

ロータリー財団は以下の大学にロータリー平和センターを設け、平和と紛争予防／紛争解決の分野で学ぶためのフェロシップ (奨学金) を提供しています。

- チュラロンコン大学 (タイ)
- デューク大学とノースカロライナ大学チャペルヒル校 (米国)
- 国際基督教大学 (日本)
- ブラッドフォード大学 (英国)
- クイーンズランド大学 (オーストラリア)
- ウプサラ大学 (スウェーデン)

国際ロータリー2015-16年度理事会

会長

K.R. ラビンドラン (スリランカ)

会長エレクト

ジョン F. ジャーム (米国)

副会長

グレッグ E. ポッド (米国)

財務長

パー・ホイエン (デンマーク)

理事

サファク・アルパイ (トルコ)

マノジ D. デサイ (インド)

ロバート L. ホール (米国)

ブラッドフォード R. ハワード (米国)

ジェニファー E. ジョーンズ (カナダ)

林 修銘 (台湾)

ピーター L. オファー (英国)

ジュリア D. フェルプス (米国)

サワラ・ラタナウィック (タイ)

エドゥアルド・サン・マルティン・カレニョ (スペイン)

杉谷 卓紀 (日本)

ギラー E. タマンガ (フィリピン)

ジョゼ・ウビラシ・シルバ (ブラジル)

ジュゼッペ・ヴィアーレ (イタリア)

カレン・ウェンツ (米国)

事務総長

ジョン・ヒューコ (ウクライナ)

ロータリー財団2015-16年度管理委員会

委員長

レイ・クリングスミス (米国)

委員長エレクト

カルヤン・バネルジー (インド)

副委員長

ポール A. ネットゼル (米国)

管理委員

ノエル A. バジャット (米国)

オルシク・バルカン (トルコ)

ロン D. パートン (米国)

マリオ C. デ・カマルゴ (ブラジル)

スシル・グブタ (インド)

マイケル K. マクガバン (米国)

サミュエル F. オオリ (ウガンダ)

フリオ・ソルフス (スペイン)

ブリン・スタイルズ (カナダ)

田中 作次 (日本)

トーマス M. ソーフィンソン (米国)

尹 永錫 (韓国)

事務総長

ジョン・ヒューコ (ウクライナ)

国際ロータリーの使命は、職業人と地域社会のリーダーのネットワークを通じて、人びとに奉仕し、高潔さを奨励し、世界理解、親善、平和を推進することです。

国際ロータリーのロータリー財団の使命は、ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。



ポリオ撲滅キャンペーンの一環として、ポリオ撲滅における進展を祝い、撲滅実現のために支援を呼びかけるため、米国ミシガン州デトロイトの「デトロイトの魂」像の前に集うロータリアン。

特記のない限り、写真はすべて国際ロータリーの提供によるものです。



表紙の写真

ナイジェリア、クラでの「Subnational Immunization Days (SIDs)」に、少女にポリオの予防接種を行うRukayya Saminuさん。ナイジェリアは、過去2年間で野生株ポリオウィルスの感染を報告した全世界で3カ国のうちのひとつです。監視と予防接種キャンペーンの強化により、ナイジェリアはポリオ撲滅まであと一步のところに来ています。

写真提供：TADEJ ZNIDARCIC



ROTARY INTERNATIONAL
THE ROTARY FOUNDATION

Rotary.org



本紙は、100%消費者使用後の繊維と無塩素漂白による再生紙を使用しています。

責任ある森林管理を徹底させるため、Green Seal認証およびFSC® 森林認証をうけています。